



～小坂町長が語る～

「酒々井町の歴史とこれからのまちづくり」

一町制施行120周年記念式典式辞より



この地に人類が足跡を印したのは約3万年前とされ、以後、水と緑の大地を背景として連綿と人間の営みが続けられてきました。

酒々井町の歴史を顧みますと、印旛沼の岸边には千六百年前に沼を水田に利用しようとした豪族が眠る古墳があり、今も水辺を守るようにたたずんでいます。

豊かに湧き出る水が潤す谷津田の奥には、千年前の阿弥陀仏が静かに人々の暮らしを見守っています。

古代、この地は印東^{いんとうのしょう}庄の要をなし、戦国の世に百年の栄華を誇った千葉氏は、印旛沼の水運を介して遠く伊勢、堺から交易の品々をこの地にもたらしめました。その居城である本佐倉城^{もとさくらじょう}は500年の時空を越えて、今、蘇ろうとしています。

豪族が眠る大鷲神社



長福寺
阿弥陀仏



中世の城下町、近世の宿場町、野馬会所として、江戸時代の賑わいは祇園、鎮守の玉垣にその繁栄を今に伝え、沼辺に残る堤防と水神は日光水と恐れられ



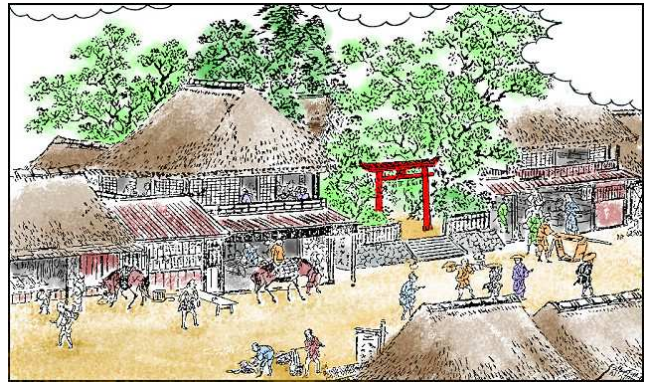
千葉氏の居城 国史跡指定本佐倉城跡

た洪水との記憶を伝えています。

約400年前の天正十九年、徳川家康により酒々井町の町たてが行われ、120年前の明治22年、町村制の施行により旧来からの集落を編成する町村合併が全国的に行われ、この結果、近隣16町村が合併しました。

当時の規模は、戸数700余、人口約3,600人と記録されており、5月6日に第1回の町議会が開かれ、酒々井町が誕生しました。

以後、120年の歩みを振り返りますと、そのときどきに歴史があり、一言では語り尽くせませんが、この歩みについて、少し紐解いてみたいと思います。



酒々井駅の図「成田参詣記」

先ず、町制を施行した明治時代。役場庁舎は、当初、麻賀多神社前に構えられ、以後、現在の中央台に落ち着くまで5度の移転をしています。

教育面では、明治5年に学制が發布され、^{すみ}墨、^{なかがわ}中川、^{もとさくら}本佐倉、^{しすい}酒々井、^{いわはし}岩橋の各小学校が開設されています。

古来より水運と陸運の接点が酒々井町の特色の一つです。水運では、印旛沼の渡舟と高瀬舟がありました。渡舟は江戸時代より続くもので、対岸の印旛村平賀を結ぶ町民の足として活躍しました。

また、高瀬舟は江戸時代から明治後期まで大型貨物輸送の花形として活躍しました。

水運は鉄道の開通によりその役割を終えていきますが、それに代わったのが陸運です。現在のJR酒々井駅が明治3

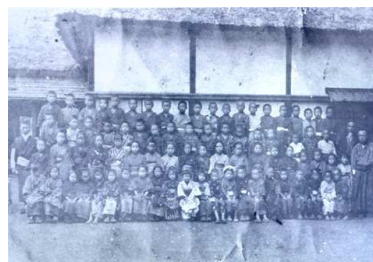


3回目



役場庁舎

4回目



勝蔵院脇にあった酒々井高等小学校(明治40年)



中川の渡船



盆踊り



酒々井小学校運動会アーチ作り(大正10年頃)



印旛沼のしょうやの池で遊ぶ子どもたち

0年に、総武本線南酒々井駅は大正3年、京成酒々井駅及び宗吾参道駅は大正15年にそれぞれ開設され、町の経済、文化に大きな影響を与えました。



旧国鉄酒々井駅



当初の京成酒々井

続いて、大きな影響をもたらしたのが、地方制度の改編の波となって押し寄せた昭和の大合併と、農業に変革をもたらした印旛沼の干拓があげられます。

昭和の大合併では、全国的に市町村合併が促され、酒々井町は新設される市、佐倉又は成田との合併問題で町を二分したものの、結局はどちらとも合併することはありませんでした。

印旛沼の干拓は、水害から土地を守り、食糧を確保する目的で始められたもので、江戸、明治以降この事業は失敗を繰り返してきましたが、昭和五十三年には、今なお未解決の問題はあるものの、干拓田の造成が完成しました。そして、町の環境にも大きな変化が生まれました。

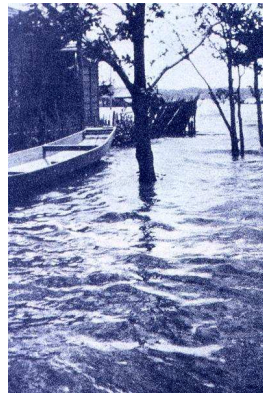
昭和のはじめには、かつての宿場町の名残と面影を保つ人口約5千人の農業を主な産業とした町でしたが、昭和40年代に入ると、町の恵まれた立地環境や特性を生かした住宅開発が進められ、昭和47年には現在の役場庁舎が完成、49年からは住宅団地の入居が開始、54年には酒々井中学校が尾上地区に移転し、57年には大室台小学校が開校しました。

この間、町の人口は急速に伸び、農業中心の町から住宅都市へと大きな変貌を遂げることとなりました。



伊籾松並木
(写真右側)
旧国道51号線

◇松並木は昭和56年の松喰虫被害で枯死、伐採されました。



昭和13年の印旛沼水害
左：柏木地先
右：大鷲神社前



大室台小学校



南酒々井駅の風景



国道51号線バイパス工事(昭和55年)

平成に入ると、町制施行100周年を迎え、人口も2万人に達するなど、酒々井町は酒々井二世紀へ向けて更に大きな飛躍を遂げていきます。

平成元年にJR酒々井橋上駅舎が、6年には京成酒々井橋上駅舎が完成し、利便性が大幅に向上しました。

10年には千葉氏宗家の居城である本佐倉城跡が国指定史跡になりました。

13年には長年の町民運動が実を結び、JR酒々井駅での快速電車の全便停車が実現しました。

15年には、同じく長年の町の悲願であった東関東自動車道酒々井インターチェンジの設置が決定され、24年度末の完成を目指して事業が進められています。

17年には、全国的に平成の大合併が進む中で、佐倉市との合併の是非を問う住民投票が実施され、昭和の大合併に続き、自立の道が選択されました。

18年には国道51号バイパスの4車線化が実現し、昨年、12月には、町の産業基盤の核となる酒々井南部土地区画整理事業が認可され、24年度末の換地処分を目指して事業が進められています。

以上、120年を振り返ってみましたが、そのときどきに多くの先輩の皆様方の献身的なご尽力と、郷土へのあふれる愛情に支えられ、本日ここにめでたく120歳を迎えることができました。



町制施行百周年記念
本佐倉城時代祭(平成元年)



現在のJR酒々井駅



現在の京成酒々井駅



快速全便停車が実現



あらためて、町勢発展を担われた、あまたの先輩の皆様方に対し、町民を代表して深甚なる敬意を表するとともに、心より感謝を申し上げる次第です。

併せて周辺市町村の皆様方に対しましても、広域連携等の推進に関し厚くお礼を申し上げます。

現下の地方自治体を取り巻く環境は、住民に最も身近な地方政府として、分権時代にふさわしい役割を担い、これまでも増して総合行政主体としての確固たる存立が求められています。

このため町では、まちづくりにおける三つのテーマに「自立」「協働」「健康」を掲げ、各種施策を推進しております。

そこで、真の町民参加によるまちづくりを進め、町民一人ひとりがかけがいのない人生を送ることができるふるさと酒々井を創造する地域社会づくりを展開してまいりたいと考えております。

議会をはじめ町民皆様方のご理解、ご協力を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今日まで町勢発展のためにご尽力を賜りました多くの皆様方に対しまして、重ねて感謝を申し上げますとともに、本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆様をはじめ、町民の皆様方の益々のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます、式辞といたします。

平成21年7月5日

酒々井町長 小坂 泰久



ふじき野の街並

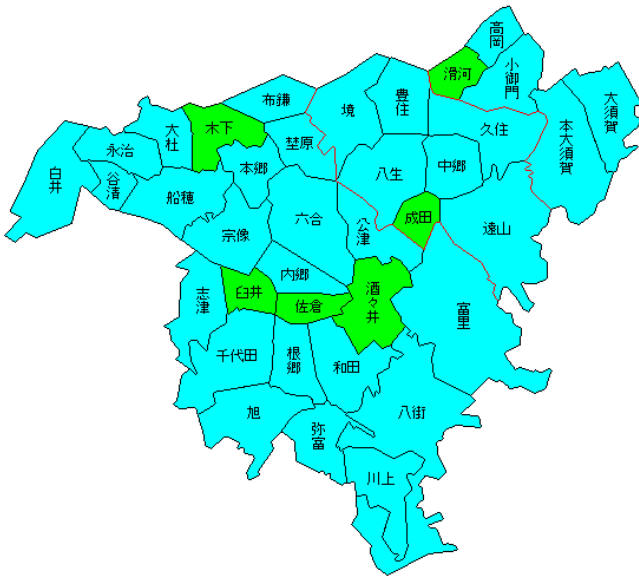


創立100周年 酒々井小学校（平成20年度）

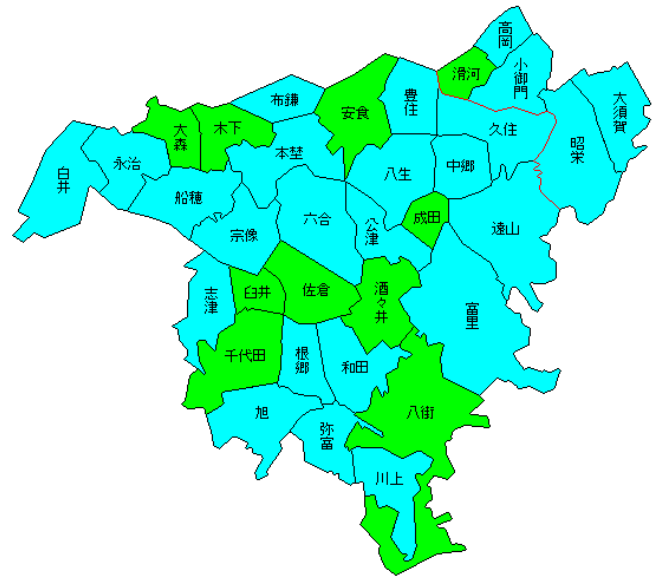


町制施行120周年記念式典（H21.7.5）

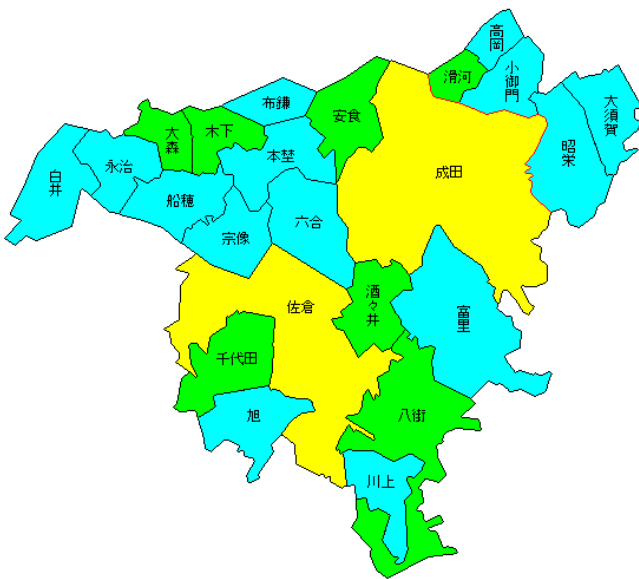
市町村の移り変わり



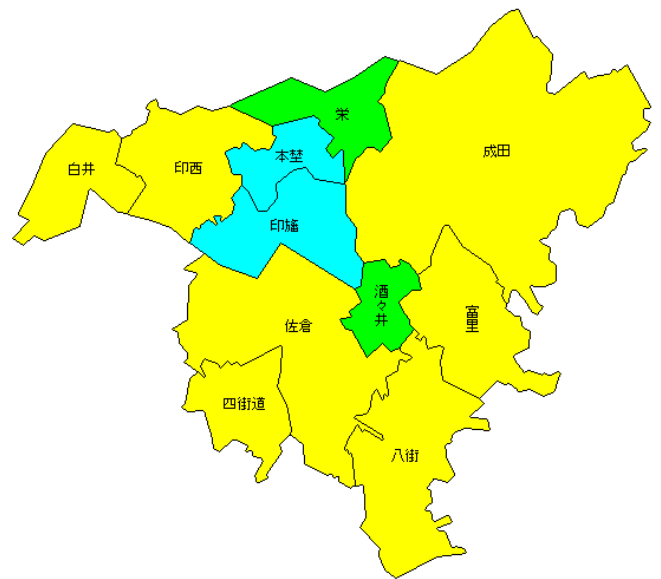
6町31村 (明治22年4月1日)



10町24村 (昭和29年3月30日)



2市7町14村 (昭和29年3月31日)



7市2町2村 (平成21年4月1日)

市町村変遷パラパラ地図 (<http://mujina.sakura.ne.jp>) を引用

